

開催報告

支部事業 学術講演会

● 第51回学術講演会 「革新的創薬を切り開くケミカルニューモダリティ」

日 時：2026年6月20日（金）13：00～17：20

会 場：TKP 渋谷長井記念ホール（渋谷区渋谷 2-12-15）

主 催：日本薬学会関東支部

実行委員長：齋藤 望（明治薬科大学）

低分子創薬から中分子、高分子創薬へと創薬モダリティが日々拡張されている状況においても、創薬研究の基盤を支えるのはやはり「化学の力」であるのは論を俟たない。一方、「革新的創薬」を実現するためには、化学そのものも変化し続ける必要があるだろう。本学術講演会では、進化し続ける化学の方法論、すなわち「ケミカルニューモダリティ」に焦点をあて、世界最先端を走り続ける4名の研究者から最新の研究成果をご紹介いただき、質疑応答や情報交換を通じて今後の創薬研究の展望を議論したい。このような観点から今年度の学術講演会を企画した。

講演会冒頭には実行委員長の齋藤から今回の主題を「革新的創薬を切り拓くケミカルニューモダリティ」とした背景と期待される講演内容について概説した。



まず、金井求先生（東大院薬）から「生命の化学秩序に介入する触媒」という標題で、生体内で安定な分子を活性化できる触媒に関する話題を、二番目の演者である横島聡先生（名大院創薬）からは「分子内環化付加反応を用いた天然／非天然多環骨格の構築」として、環化付加反応を巧みに利用した、複雑な環状構造を有する天然物合成や非天然型の骨格構築に関する話題を提供して頂いた。

その後休憩を挟み、玉村啓和先生（東京科学大生材研）から「ペプチド医薬品の開発と中分子・低分子創薬」というタイトルで、ケモカイン受容体アンタゴニストをはじめ、ペプチドを基盤とする創薬研究に関する講演を頂いた。最後に岩渕好治先生（東北大院薬）からは、「後期構造修飾および D2B 戦略による PROTACs 創製：アカデミアからの創薬エコシステム構築への挑戦」として、"Direct to Biology" アプローチによるアカデミアにおける効率的創薬研究に関する話題を提供して頂きました。

講演会には 151 名（一般 55 名、学生 96 名）と多くの方に参加して頂き、質疑応答でも活発な議論が交わされた。

講演会終了後はホールのロビーにおいて情報交換会が開催され、講師の先生を囲み和やかな雰囲気の中、参加者の交流が深められた。



最後に、関東支部長の高橋秀依先生、4 名の講師の先生がたならびにご参加頂いた多くの皆さまに、充実した講演会となったことを心から感謝申し上げます。

第 51 回日本薬学会関東支部
学術講演会 実行委員長
齋藤 望（明治薬科大学）

プログラム

12:55～13:00 開会挨拶 齋藤 望(第 51 回学術講演会実行委員長・明治薬大)

13:00～14:00 座長：杉山重夫（明治薬大）

「生命の化学秩序に介入する触媒」

金井 求（東大院薬）

14:00～15:00 座長：高取和彦（明治薬大）

「分子内環化付加反応を用いた天然／非天然多環骨格の構築」

横島 聡（名大院創薬）

15:00～15:15 休憩

15:15～16:15 座長：穴田仁洋（武蔵野大薬）

「ペプチド医薬品の開発と中分子・低分子創薬」

玉村啓和（東京科学大生材研）

16:15～17:15 座長：高橋秀依（東京理大薬）

「後期構造修飾および D2B 戦略による PROTACs 創製：

アカデミアからの創薬エコシステム構築への挑戦」

岩渕好治（東北大院薬）

17:15～17:20 閉会挨拶 高橋秀依（令和 8 年度日本薬学会関東支部長）

17:30～19:00 情報交換会（於 TKP 渋谷長井記念ホール ロビー）

連絡先：

日本薬学会関東支部事務局

〒150-0002 渋谷区渋谷 2-12-15

E-mail: kantosb@pharm.or.jp

【実行委員（50 音順・敬称略）】

明治薬大：伊藤元気、大類 彩、木村真也、齋藤 望、佐々木寛朗、杉山重夫、
高取（木下）薫、高取和彦、田湯正法、野地匡裕、林 賢、樋口和宏、松永和磨、
横屋正志

武蔵野大薬：穴田仁洋